

法学部 学生と 「 キタロー会 」 のスタート

留学生別科長 丸山 和美

教職課程センターの講義を担当して、数年が経ちます。今年新たに「模擬法廷模擬授業」を二度程取り入れました、第1回目は(窃盗事件)・第二回目は (危険運転致死罪) でした。それぞれに裁判長・裁判官・書記官・被告人・弁護人・検察官・目撃証人などの登場人物を決め一人一役で読み合わせから始めました、(A4 16ページ) のシナリオを印刷それぞれにロールプレーから入りました。この時から学生は真剣さと事件の流れや結末に期待する雰囲気を感じ取ることができました、私の自身は模擬法廷での授業は初めてでした。幸い「 法学部 」の学生はいくつかの講義の受講はあるようでした。開廷人定質問・起訴状朗読・黙秘権の告知・被告人・弁護人の陳述・検察官冒頭陳述、弁護士冒頭陳述、など役柄にそっての棒読みから入りました。次に正面上段裁判官席、向かって右側手前弁護人席、向かって左手前検察人席、正面手前は被告人席など各自の立ち位置から二度目の読み合わせがはじまりました。一流の役者？声優？とはいきませんが、それでも検察官が被告人への訊問へと進みます。時間がすすむにつれ調子が上がります、弁護人は検察官とは違った口調で進みます、それは大河のごときゆっくりと裁判官席にも届くような論し方で弁護を続けていきます、傍聴席学生の日も輝きを肌で感じ取ることができました。いいねー被告人もがんばれ！のおもいでした。将来この学生達が教壇に立ち「 司法 」・「 裁判所 」・「 裁判員裁判 」などの分野に入ったら、また生徒からの質問を受けたら、いや受けなくてもこの模擬授業を瞬時に思い浮かべ、より具体的に野球中継の如く話始めることでしょう、この模擬法廷模擬授業が大きな自信に繋がる筈だ。模擬とはいえ現場を知ることは大切なことではないでしょうか。

学年末の定期考査もおわり、夕方自宅でのんびりしていると、学生から「 食事会 」案内の連絡をいただきました。日頃より「 グライダー型人間 」から「 自力型人間 」を目指すよーに、つまりエンジンの付いてない飛行機はよく訓練を受け教官の指示どおり勝手には飛び上がらない(規律違反)である。あくまでも受動的に受け止め指示待ち状態である。目の前の学生はこの状態から脱して新しく自律型人間に成らなくてはいけないが少しの方向づけのお手伝いがしたくなりました。朝番組のなかで、大きな高い声を作るには「 キタロー 」と発すればよいとか？ 午後の講義で試してみたクラスがこのクラスであった、一同に大合唱が始まりました。いけますねー後日の「 食事会 」楽しく過ごす事ができました、出来ることならこの先もこの会が続きますよーに。後日、この会の参加者から、どんな教師を目指すのか？の質問に答えてくれました、⇒ 生徒への教育的愛情を常に注ぎ自らの体験談等を用いて生徒に様々な物事のとらえ方があることを教え生徒一人一人の可能性を最大限に引き出していけるような教師を目指す。という答えが返ってきました。

合掌